

JATA副会長に就任した 坂巻伸昭 東武トップツアーズ代表取締役社長

「業界の皆さんが笑顔になるように」 価値創造産業への転換に本気で取り組む

今年6月に、東武トップツアーズの坂巻伸昭代表取締役社長がJATA副会長として選任されました。JATA国内旅行推進委員会の委員長も務める坂巻副会長に、その抱負や考え方を話していただきました。

「原点回帰」がキーワードに

副会長に就任されての抱負をお聞かせください。

坂巻 一般的には旅行業界が良い状態にあるように言われていますが、実際には転換期に来ているのではないかと思っています。それは一つには、急増する訪日インバウンド需要にどう対応できるのか、もう一つは、国策として「観光立国」を目指す中で旅行



「JATA会員の声に耳を傾けたい」と語る坂巻副会長

業界の位置づけはどうなるのか。そうした課題への対応を図る方で、OTAの台頭によって、インターネットを使ったFIT旅行者も増加してきており、色々な意味で旅行業界として転換を求められていると考えています。

特に、オンラインによるエア&ホテル販売の拡大に対応するという意味での転換が大きなテーマであり、リアル・エージェントとしてどういう形を作っていくかということに業界全体で正対していかなければなりません。一体となり取り組んでいきたいと考えています。田川会長が繰り返し強調されているように、かつて旅行業界が全力を傾けて繁栄の時代を築いた原点に立ち返ることが重要であり、「原点回帰」は重要なキーワードだろうと思います。

企画力・提案力・斡旋力・添乗力といった旅行会社の真価を發揮して「旅の力」を示さなければなりません。

坂巻 そうです。昨今の状況を見ていると、旅行の価値が金額だけで捉えられがちなのですが、旅行の価値というのは金額だけではありません。旅先で何ができるかというところが重要であり、それをしっかりと伝えられるようにしていかなければ、OTAの台頭によるエア&ホテル販売の拡大

大に押されるばかりという事態になりかねない。旅行業界として価値創造産業への転換に本気で取り組んでいかなければなりません。

持続可能な地域観光振興を

国内旅行推進委員会の委員長としては、どのような方向性や活動をお考えになつていきますか。

坂巻 私は30数年間にわたって鉄道人生を歩んできましたが、鉄道事業では如何に沿線の価値を高めて定住人口を増やすかということに傾注してきました。鉄道は創業以来、沿線の価値を高めるために、百貨店やレジャー施設をつくらしたり、駅前や住宅の開発などをやってきました。しかし、定住人口を増やすことに限界が出て来たり、人口減少の時代に移ってきている中で、これからは交流人口の拡大も考えていかなければなりません。

東武グループの場合、スカイツリー事業が交流人口の拡大に本格的に取り組むスタートとなりました。求心力の大きい東京スカイツリーを軸に、日光・鬼怒川や両毛地区などの沿線への旅行流動を創出していくことを目指しています。そこで注力しているのが、地域の財産である観光資源をもっとプ

ラッシュアップすることです。東武グループの「聖地」とも言うべき日光では、東武グループとしてバックアップしつつ、東武トップツアーズがDMO事務局として積極的に取り組んでいます。地域に「自立」と「自律」をもたらすのが観光振興であり、そのエンジンとなるのがDMOです。JATA国内旅行推進委員会の委員長としても、いわゆる持続可能な地域観光振興に資する活動を展開できるようにしていきたいと考えています。

会員各社の声に耳を傾ける

JATA副会長として、会員会社の皆さんへのメッセージをお願いします。

坂巻 もともと鉄道出身の人間から見ると、旅行業は大変ですけれども、その一方で非常に楽しい仕事です。そのことを実感できるようにして、旅行業界の皆さんを笑顔にできればと考えています。「観光立国」を目指す国の施策に協力するため、JATAは旅行業界全体を牽引するという機能を發揮すると同時に、1000社を超える会員会社の皆さんにJATA会員であることのメリットを感じていただける役割も果たさなければなりません。会員会社が今、何に悩み、どんなサポートを必要としているのか。そうした皆さんの声に耳を傾けることを仕事とする副会長がいてもいいのではないかと考えています。その意味も含めて、JATAの各支部が日常的な活動を強化するための声を聴いていく重要性も増してくるだろうと思つていきます。